

(兼題)

「綴る」 岡 あきら 選

佳句

自分史を綴ると苦い箇所がある  
思いきり生きた人生綴り込む  
ほころびを綴り伸よく生きる老い  
日記には夢の欠片も綴っておく  
綴るほどあなたが遠くなってくる

たえこ

弘子

美千代

美智子

美江子

人

望郷の思い綴って街に住む

竹治ちかし

地

思い出をぎゅつととじてもあまる史

吉川らんまん

天

想い出を綴ると父の声がする

佐藤 治代

軸吟

私を綴るため息ばかり出る

岡 あきら

(兼題)

「エリート」 岸 桂子 選

佳句

エリートと言われた頃は華だった  
エリートになったところで夢さめる  
エリートと同じ空気を吸っている  
エリートのかせを見抜いている金魚  
エリートへしがみついている影法師

たえこ

敬子

あきら

美江子

美智子

人

エリートの森を抜け出てから元気

竹治ちかし

地

エリートのコースが人生狂わせた

岡田 祐次

天

エリートが時々止まる曲り角

岡田 祐次

軸吟

エリートの才能をもつ血の絆

岸 桂子

(兼題)

「番号」 銭山 昌枝 選

佳句

番号で何処まで管理する気やら  
私には私に合った番号で  
番号は自分を代理してくれる  
背番号1でベンチに居る辛さ  
番号に指図をされる診察日

煩惱児

久子

桂子

ちかし

あきら

人

もう少しこの番号で生かされる

仲田美千代

地

マイナンバー付けられこの世生かされる

竹治ちかし

天

十二桁の番号からは逃げられぬ

多久和敬子

軸吟

ロボットの様人間まで数字

銭山 昌枝

(席題)

「月」 竹治ちかし 選

人

君も見ているかも知れぬ秋の月

岡 あきら

地

お月様今日の願いをかけてみる

珍部美江子

天

満月がウインクしたよ紅をひく

堀 弘子

軸吟

違う地で親と子が見る同じ月

竹治ちかし